

出雲市消防団改革推進委員会

【女性消防団員の拡充資料】

目 次

○女性消防団員の現状及び今後の拡充に向けて・・・・・・・・・・	1
○R5 組織図（女性団員の所属）・・・・・・・・・・	3
○女性消防団員活躍のためのガイドライン・・・・・・・・・・	4
○出雲市消防団の女性団員紹介資料・・・・・・・・・・	8
○女性消防団員の活躍（総務省消防庁資料）・・・・・・・・・・	9

女性消防団員の現状及び今後の拡充に向けて

1 消防団員の現状について

(1) 団本部付けの女性消防団員【P 2】

- ・部長 1 名、班長 1 名、団員 5 名
- ・各種イベント等の活動（消防団活動 P R、火災予防啓発、応急手当啓発等）

(2) 分団付きの女性消防団員【P 2】

- ・伊波野分団 1 名、鷺鷥分団 1 名
- ・原則、男性団員と同様な活動

(3) その他

- ・女性消防団員の活躍のためのガイドライン【P 3】
- ・女性消防団員のコメント等【P 4】

2 答申として

団員のなり手不足、団員数維持には男性はもとより女性団員を拡充すること。

(1) 女性団員の採用を推進する

(2) 活躍について、広く市民に周知する

(3) 活動しやすい環境を整備する

- ・災害現場、各種消防団活動で女性が活躍できる環境づくりに努める
- ・活動の拠点となるコミュニティ消防センターに女性更衣室やトイレの整備をする

3 各地における女性消防団員の活躍【P 1 1～1 4】

(1) 全国的に消防団員が減少する一方で、女性消防団員は年々増加している

(2) 各地の女性消防団員の活躍

- ・応急手当、防火広報・訪問、イベントでの活動広報
- ・保育園、幼稚園での避難訓練指導
- ・昼間火災の出場団員確保のため、町内企業に勤務する女性で組織された「女性隊」として第 1 線で活躍
- ・機能別分団として「広報指導分団」

4 女性消防団員の拡充に向けて

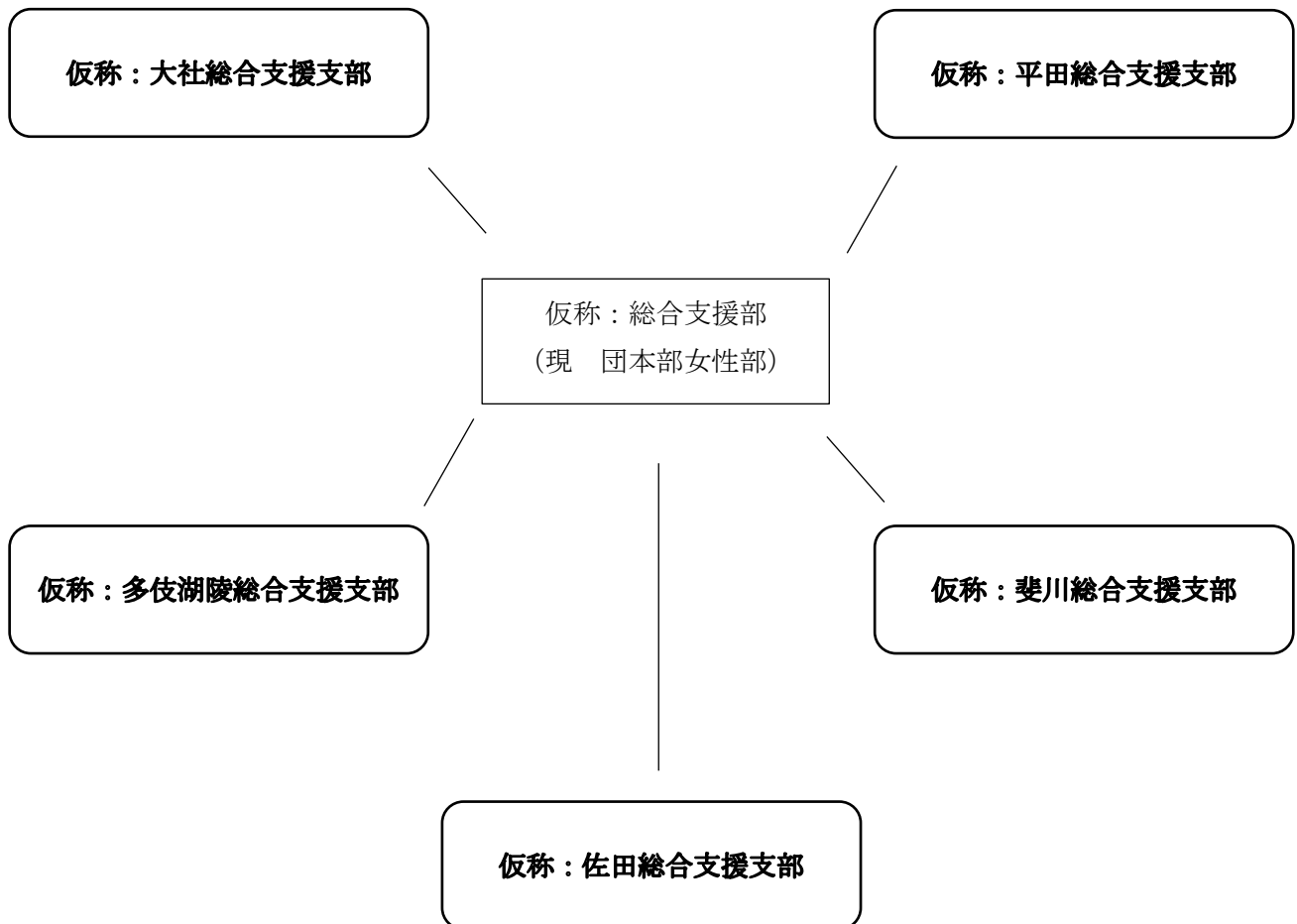
(1) P R 等の取組み

- ・女性消防団員の存在及び活動を広く知ってもらう
(イベント、SNS、パンフレット等による広報活動)

(2) 拡充に向けて取組み令和 6 年度から隔年開催とされ、全国大会に出場する単一種目。

- ・女性部を機能別団員（仮称：総合支援部）として位置づけ（第 1 1 回委員会）
- ・団本部女性部を拡充、または、各地域に女性部組織（総合支援支部）として拡大

女性団員の拡充（例）イメージ図



組織図（女性団員の所属）

第 1 2 回 委員会資料
令和 6 年(2024) 2 月 7 日

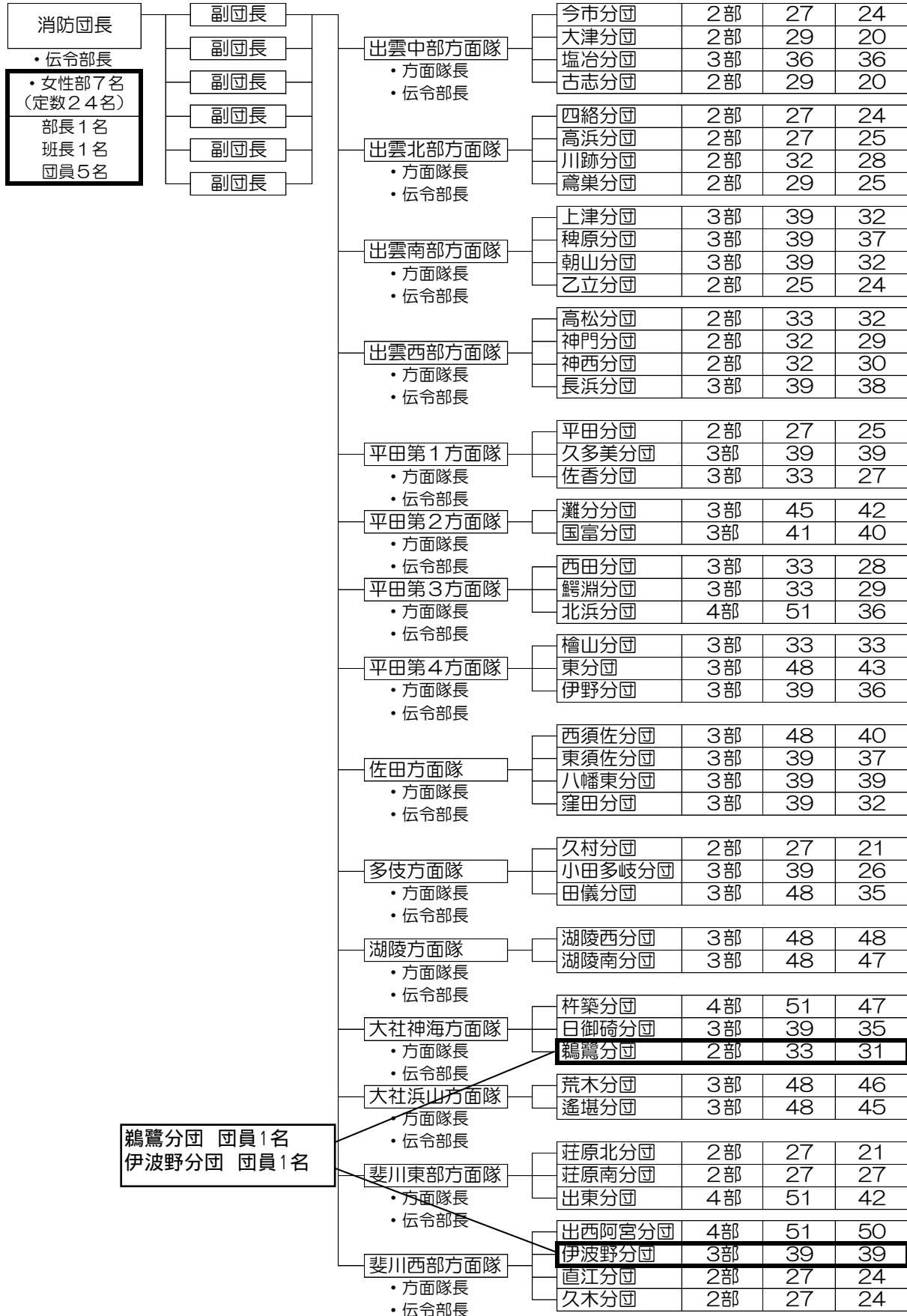
出雲市消防団組織図

(定数1,841人)

(実数1,635人)

(R5. 4. 1 現在)

15方面隊 48分団 130部 定数 実数
※方面隊長は副団長級 1779 1590



団本部 62人(定数)

団本部 45人(実数)

分団 1,779人(定数)

分団 1,590人(実数)



女性消防団員活躍のための ガイドライン



1 女性団員の役割と配慮

これまで出雲市消防団における女性消防団員の役割は、日常における火災予防広報活動、応急手当の普及活動、各種訓練・研修への参加、各種行事への参加等を行うこととしておりました。

しかし、近年、全国で頻発する大規模災害への対応、団員のなりて不足、女性活躍推進などから災害現場においても女性団員の活躍が求められるようになりました。出雲市消防団では、令和2年に「出雲市女性消防団員活動業務要綱」(令和2年4月1日施行)を策定し、これまでの広報活動に加え、女性団員も男性団員と変わりなく、男性と同じ任務を遂行できるように見直しを図りました。

女性団員は、多くの男性の中での活動になります。性的な言動に起因する問題(セクシャル・ハラスメント)や女性差別などを防止するための配慮として、所属する分団、部において他団員への教育指導を実施することとします。

また、災害時の活動については、女子労働基準規則により就業制限があることから、災害現場活動においては、次の点に留意することとします。

女性団員の災害時の活動は、本人の意向を必ず確認します。

できない場合は、軽量の資器材搬送、指揮支援活動、広報活動、交通誘導、避難者の介護など後方支援を行います。

(1) 有毒ガス

消火活動においては、火元建物外部からの注水とする。

放水ノズルの保持は、必ず2名以上で保持する。

(2) 重量物搬送

30 キログラム以上の重量物を取り扱う場合は必ず複数の人員で行います。

2 日常の活動

(1) 管轄区域における防災関係情報の収集

日常生活を通じて、災害活動上有効と思われる情報を収集します。

例として、各家庭の家族構成、ひとり暮らし高齢者、寝たきり高齢者、空き家、空地、枯れ草、危険物品の有無、放置車両、その他災害活動上有効と思われる情報をいいます。

これらの情報は、災害発生時に現場指揮本部に対し情報提供していただきます。

なお、これらの情報は、地方公務員法上の職務上知り得た秘密に該当する場合があるので、むやみに関係者以外の者に漏らしてはいけません。このことは、職を退いた後も同様です。

(2) 防災知識・技術、応急救護技術の習得

自分自身の災害対応力を身につけると共に、地域の皆さんに対する防災指導を実施するために、

消防署や消防団の研修会には積極的に参加し、多くの知識や技術を習得します。心肺蘇生法を習得するため、普通救命講習は必ず受講します。

(3) 災害対応知識・技術の習得、消防ポンプ操法

火災想定訓練、水防訓練などの災害対応訓練には男性団員と同様に参加します。訓練内容については、女性団員の意向を確認し、可能な訓練をおこないます。

消防ポンプ操法については選手としては参加しません。消防ポンプ操法訓練の後方支援については、家庭、お勤めの状況が許せばご協力をお願いします。

(4) 地域防災訓練、防災教育の指導

地域で実施される防災訓練等においては、地域の防災リーダーとして地域防災拠点の支援・出火防止・応急救護等の普及啓発活動を実施します。

(5) 防災訪問・地域高齢者等からの防災相談対応

日頃から、地域の高齢者等に関する情報を収集し、高齢者自身や家族が不安に感じている防火・防災に関する相談等を受けます。消防団員として知り得た個人情報、他に口外しないよう十分に注意しなければいけません。

(6) その他

女性消防団員で、いろいろなアイデアを出し合い、地域の実情に即した防災普及活動を展開していきます。

3 平素の心得

女性消防団員が、その任務を遂行するために必要な平素の心得としては、防災知識・技術の習得等をはじめ、次のようなことに心がけます。

(1) 正しい情報の活用と提供をするために

平素から居住地付近の地域に関する情報を把握しておき、災害活動に活かします。

(2) 地域防災のリーダーになるために

消防団員は地域防災のリーダーです。災害発生時や防災訓練時には住民を指導する立場にあります。このため、防災教育や訓練を積極的に受けて、地域防災リーダーとしての指導力を身につけることが大切です。

(3) 消防団活動を円滑にするために

消防団に配備されている資機材は、いつでも使用できるように整備しておくと共に、取り扱い方法を習熟しておきます。

(4) 消防団の組織力を発揮するために

消防団活動を効果的に行うために各種活動計画がありますので、災害現場では、自分勝手な行動は禁物です。活動内容をよく理解しておくことが必要です。

(5) 安心して消防活動をするために

消防活動に参加するために家族の理解と協力が不可欠です。日頃から、家族の協力体制づくりをしておきましょう。

4 災害現場活動

災害現場における活動の具体的な実施要領については、「出雲市消防団安全管理マニュアル」「出雲市消防団震災対応マニュアル」の中に、消防団員が担当する情報収集・広報活動・応急救護活動等について記述されているので、これらを参照の上、次の事項についても併せて習得しておくことが大切です。

(1) 災害情報の収集・伝達・広報

災害現場には、消防隊による現場指揮本部が設置され、情報を一括収集しています。平素の消防団活動を通して、災害現場等の状況について把握していることがらがあれば、消防隊に早く正しい情報を提供することが必要です。

(例) ・火災で逃げ遅れた人がいる。

・寝たきり老人がいる。

・燃えやすいものがある。

また、災害現場における団員間の情報伝達や会話は、周辺住民の心情を考慮して誤解を与えないように、心配りをします。

広報内容については、指揮本部の指示に従います。

(2) 住民に対する避難・誘導

指揮本部の指示により、付近住民に対し避難を呼びかけます。避難誘導に際しては、メガホン・携帯マイク・車両積載マイク等を活用し、パニック防止に配慮すると共に、火点から遠ざかる避難方向や煙の薄い方向へ誘導します。

(3) 被災者への応急救護活動

指揮本部の指示により、女性消防団員に配付されている応急手当用品等を活用し、被災者に対し、応急処置・搬送等の救護活動を実施します。

この時、傷病者の嘔吐物や血液に直接触れないように、感染防止に十分注意します。

※ 女性消防団員配付応急手当用品(案)

(4) 警戒区域の設定及び一般市民等の整理

消防隊等が災害現場活動を行うのに必要な範囲を消防警戒区域としてロープ等を張って明示し、一般人の出入を規制します。付近住民に対し警戒区域の中に立ち入らないように広報活動を実施します。(広報文例参考)

(5) 積載車の機関員

緊急走行することに必要な教育を受け、ポンプ操作の習熟訓練を受けた者については、積載車の緊急走行及びポンプ操作が行えるものとします。

(6) 消火活動

女性労働基準規則による就業制限から、次の留意事項を考慮し対応します。

ア 有毒ガス、蒸気又は粉塵を発散する場所における業務

常時有毒物のガス等が発散している場所が制限の対象となり、発生するおそれのある場所までを含むものではないことに留意します。

また、屋外からの消火活動のみに従事した場合、有毒物のガス等を吸引する可能性のすべてを否定できないが、これが人体に直接の影響を及ぼすものとは考えにくく、近年の建物火災件数に鑑み、こうしたガス等が蓄積することによる人体への影響についても、危惧するには及ばないと

考えます。

イ 重量物搬送を伴う業務

重量物を取り扱うとは、持ち上げることであり、押すことや引くことは含まれない。また、重量物とは荷物を意味しており、人体は含まれない。重量 30 キログラムを超えるものは、他の団員と共同で取り扱い許容の範囲となるよう留意します。

(7) その他指揮本部からの特命事項

指揮本部から女性団員に対し、特命事項等が指示された場合は従います。

5 大規模災害時

基本的には、「出雲市消防団震災対応マニュアル」を参考に、分団長、部長、班長の指示に従います。活動としては、以下のようなものが考えられます。

(1) 管轄地域内の防災組織・地域防災拠点への支援活動

大規模災害が発生し、管轄地域内に防災組織が結成され活動している場合には、積極的にその活動を支援します。

また、その支援活動にある程度終息の見通しが立った場合は、地域防災拠点や避難所内での支援活動に移行するものとします。

(2) 災害状況の情報収集と伝達

管轄区域内で発生した被害状況等を収集し、公設消防隊・救急隊、所属する分団に情報を伝達するものとします。

6 施設・装備の改善

女性消防団員の活躍の場を広げるために、コミュニティー消防センター等の洋式トイレなどの施設整備を計画的に進めていきます。また、女性消防団員の要望に応じて、女性用の被服・装備品の導入を積極的に進めたいと考えています。



出雲市消防団の女性団員を紹介します

出雲市消防団には、9名の女性団員が所属しており、うち、7名が「団本部女性団員」、2名が「分団女性団員」です。

女性団員
募集中!



団本部女性部



出雲市消防音楽隊に参加する女性部団員



救急法指導する様子



救急法指導した女性部団員

活動内容は主に啓発活動です。消防出初式、応急手当講習、春と秋の防火パレード、高齢者宅の防火診断などにも参加します。平成19年には『第18回全国女性消防操法大会』に出場しました。

現場に出なくても、火災予防に関わることができます。女性部団員も募集していますよ。



消防出初式



防火診断の様子



第18回
全国女性
消防操法大会

分団女性団員



斐川西部方面隊
伊波野分団所属

相良 さつきさん [R3.4.1~]

Q1.入られたきっかけを教えてください。

「私の住む町内（自治会）から1名ということで消防団に入団しました。」

Q2.消防団に入る前の心情を教えてください。

「初めての女性ですし、体力の事もありますが、不安はありませんでした。」

Q3.活動内容を教えてください。

「伊波野分団は月1回の放水訓練と火災警戒広報を行っています。放水訓練では小型ポンプの操作訓練をしています。団員の皆さんの親切で丁寧なご指導を受けながら活動しています。」

Q4.消防団に入ってどうでしたか。

「分団長、部長などから心強い激励の言葉をいただき、班長には事務連絡や訓練計画などを丁寧にいただいています。このように長年活動に貢献してくださっている皆さんの下で私も活動でき、日を追うごとに感動しています。引き続き消防活動に参加できたらと思います。」



大杜神海方面隊
鷺鷥分団所属

足立 彩子さん [R4.4.1~]

Q1.入られたきっかけを教えてください。

「鷺鷥分団の分団長から誘われて、入団しました。」

Q2.消防団に入る前の心情を教えてください。

「若い男性が入るものだと思っていました。女性でも入れると聞いて驚きました。」

Q3.活動内容を教えてください。

「鷺鷥分団は第一日曜日に放水訓練を行っています。この前は小型ポンプのかけ方などを教えてもらいました。」

Q4.消防団に入ってどうでしたか。

「火事だけでなく、水防活動、捜索活動も消防団活動だと教えてもらいました。仕事柄、救急法も受けたことがあるので、地元のために何かあった時は対応できるようにしたいです。」

総務省消防庁資料

女性消防団員の活躍

女性消防団員数の推移



消防団員数が減少する一方で、女性消防団員数は年々増加しています。令和 2 年 4 月 1 日現在、27,200 人(全体の 3.3%)、女性消防団員を採用する消防団の割合は、75.1%となっています。女性消防団員は、地域の実情に応じて、消防団本部付けの採用とされたり、各地域を管轄する分団に所属したり、女性のみで組織する分団に所属したり、活躍の形態はさまざまです。消防団の組織の活性化や地域のニーズに応える方策として、女性消防団員を採用しようという動きも全国的に広まっています。女性の持つソフトな面をいかして、住宅用火災警報器の普及促進、一人暮らしの高齢者宅の防火訪問、住民に対する防災教育及び応急手当の普及指導等においては、特に女性消防団員の活躍が期待されています。また、消火活動や後方支援、操法訓練にも参加しています。

1 北海道 上湧別町消防団

「防災意識は小さい頃から身につけることが最も効果的」という観点から、**10名の女性消防団員**が、町内の保育所・幼稚園の避難指導訓練に取り組んでいる。**園児の興味を惹かせる動物の着ぐるみ**を活用。



2 秋田県 鹿角市消防団

消防団員不足を解消するために女性消防団員を募集したところ、**18名の女性消防団員が誕生**し、その中から**カラーガード隊が結成**された。

平成20年7月に開催された「第60回鹿角支部消防訓練大会」の入場行進では、短期間の練習にもかかわらず、堂々とした華やかな演技で大会に華を添えた。



この大会ではアトラクションとして、**女性消防団員によるポンプ自動車での揚水訓練も披露**され、消防団のPRに貢献した。



3 新潟県 新潟市消防団

平成18年度事業の重点推進施策として、**女性消防団員**を増強採用するため、120名を目標に積極的な入団促進事業を展開し、**112名の増員**に成功。

入団後は、応急手当講習や防火・防災に関する研修の受講、防火広報、独居老人宅への防火訪問など、女性のソフト面を活かし活躍している。



4 埼玉県 さいたま市消防団

女性のみの「広報指導分団」は**平成16年10月に発足**した機能別分団で、**現在43名**。

火災予防運動における広報活動として、**住宅用火災警報器の設置**を促すチラシを街頭で配布している。

市の消防フェアでは、住民への**応急手当の普及啓発**を行っている。



5 長野県 池田町消防団

近年の消防団員の被雇用者化及び勤務地の遠隔化等により、**昼間火災の出動団員数の確保をするため、町内企業に勤務する女性で組織された女性隊**を平成19年4月11日に発足した。現在**18名の女性**が活躍中。

主な活動は、町イベント時の紙芝居による幼年消防教育や、消火栓を使った消火訓練等を行っている。



新たに発足した救護隊バイク班にも**2名の女性団員**が参加



6 三重県 津市津消防団（デージー分団）

※「デージー」＝「ひなぎく（火無効く）」

デージー分団は、平成18年1月に**女性のみで組織する消防分団**として発足し、**現在11名の女性消防団員**が、広報活動、一般家庭への防火訪問、一人暮らしの高齢者宅への防火訪問、応急手当指導など幅広く活躍している。



近年では、防災訓練での消火活動の訓練も行っている。

7 兵庫県 尼崎市消防団

あまがさきファイヤーフェアリーズ



平成5年から女性消防団の活動を開始し、現在55名。
最近では、地区祭りやイベントなどで、防火防災に関するクイズや、オリジナルソング「一人ひとりの大切な命」に、いざという時の行動を振り付けし、マスコットキャラクター「あかりちゃん」「しずくちゃん」とともに、市民の防火防災普及啓発に貢献中。



8 熊本県 津奈木町消防団

津奈木町は漁業を主体とする地区であり、男性が出漁する昼間の守りは女性が行わざるを得ず、**昭和26年に女性だけの分団が結成**された。現在女性は**29名**。



女性の場合、予防活動や後方支援が一般的だが、津奈木町の女性消防団は**第一線で消火活動を行い、男性同様の活動や訓練**を行っている。「いざという時に男も女もない。」と、**女性団員は語る。**